

文化・芸術

「『悪の華』わが夜な夜なの暗やみの背景に神は巧みな指先もて途切れることなきさまの悪夢を描く」

1890年 銅版・紙9・8センチ×8・4センチ

オディロン・ルドン (1840～1916年)

19世紀から20世紀初頭に活躍したルドンは、孤独と瞑想(めいそう)を愛し、神秘的な画風で広く知られています。1857年から交流した植物学者のアルマン・クラボワは、パリでアカデミックな教育になじめずホルドーに戻って来たルドンに、ボードレール、ポーといった文学やスピノザの哲学に親しむことを薦め、精神世界の内奥の探求へと向かうルドンの良き理解者となりました。ボードレールの詩集「悪の華」は出版と同時にルドンに紹介しています。これらの文学はルドンの創作意欲をかきたて、のちに版画作品として結実します。

本作は、3月1日から7日まで、桐生市市民文化会館(美喜に桐生文化会館)展示室で開催の「移動大川美術館展」で展示いたします。第35回の本展では「画家と文学」をテーマに、当館コレクションから、ルドンをはじめとして、藤田嗣治、シャガール、アントニ・クラベ、ベン・シャーンらによる版画作品をご紹介します。(大谷)

〈名画の扉〉

移動大川美術館展「物語をえがく—文学と版画の世界—」から

